市民のひろば

会場のお客さんに取材のマイクを向ける講師の重岡さん

半歩先を目指してできることから

図書館講演会「食卓の向こう側に見えるもの」

市立図書館では、西日本新聞連載の「食卓の向こう側」の記者、重岡美穂さんを招いて1月21日、講演会を開きました。会場は子ども連れのお母さんをはじめ、男性の姿も多く、立ち見がでるほどの盛況ぶりで関心の高さがうかがえました。講演は、「砂糖の問題」「輸入食品」「若い人の食生活」「食べ残しの問題」など、実際に取材した記者ならではの内容に、聴衆は驚きながらも、熱心に聞き入っていました。重岡さんは自身の経験からも「現代は情報が多すぎる。無理しないで“半歩先”を目指して、できることから続けることが大切では」と語っていました。

「和」の心でおもてなし

杉森女子高等学校で初生け・初釜式

大人の女性としての教養を身につけるために日本の様々な文化を学ぶ杉森女子高等学校クリエイティブ・ライフ科の1・2年生の45人は、新年を祝い、保護者や中学校の先生をもてなす「初生け・初釜式」を１月21日に開きました。「初生け」「初釜」とも1年生が担当。初生けでは、上座に置かれた大きな花器に生徒が一本一本花を生け、初釜では高山宏國校長に丁寧にお茶をたてました。また昼食前の軽い食事を意味する「点心（てんしん）」の料理は2年生が担当。前日から準備した正月にちなんだ料理でもてなしていました。

栗きんとんや柚入りかんてん、黒豆などの料理が用意

80年の世代を超えて仲良くプレーした

三世代が心のふれあい

二ツ河校区公民館親善グランドゴルフ大会

校区民の健康増進と心のふれあいの場をと1月15日、二ツ河校区公民館（野田嚴館長）の第13回親善グランドゴルフ大会が同小学校運動場で行われました。

小学生から90歳代のお年寄りまで約100人が、全8ホールのコースに挑戦しました。5、6人ずつ16チームに分かれ、8チームごとに競技を行い、個人のスコアを競いました。参加者は「おしい！　もうちょっとやったね」「うまいね」などと声を掛け合いながら、楽しい時間を過ごしました。

ひろば

身近な話題などお知らせください！ お便りなどお待ちしています

「おいしい給食が楽しみです」と代表がお礼を述べた

栄養満点の給食に感謝

昭代第一小学校「給食ありがとう集会」

1月24日からの給食週間を前に、昭代第一小学校（柴田信之校長）では、19日「給食ありがとう集会」を体育館で開きました。集会では、5人の調理員さんに、クラスごとに“毎日、栄養満点な給食をありがとう”などと書いたメッセージを読み上げ、調理員からは「おいしい給食を作りますので、好き嫌いなく食べて、丈夫な体をつくってください」とメッセージがおくられました。その後、学年ごとに人気No1のメニューを出し合うなど、給食に感謝する出し物を披露し、5人の調理員さんたちへお礼の拍手をおくりました。

自分の健康は自分でつくろう

柳川市地域婦人会連絡協議会がん征圧研修会

婦人会、女性連絡協議会が合併して初めての「がん征圧研修会」が1月22日、三橋公民館で開かれました。

研修会では、4人のがん経験者が登壇。がんらしきものの発見から病院での検査、がんの告知の際のショック、手術やその後の様子などを体験談として語りました。「暗くなりそうな話を、ユーモアを交え面白おかしく話せるのも“早期発見”で手術も成功し、元気になった今だからできること」と話す体験者の談話に400人の会員は、定期検診の大切さを実感していました。

貴重な体験談を熱心に聞く参加者

水も人もキラリ　川柳

今月の入選作品・課題「遠い」

古賀麗子（吉原）

汽車の音遠い昭和の響きあり

遠い過去がいつも美しく思えるのはなぜだろう。たとえ辛く苦しい事柄でも「時」はそれを浄化してくれる。「杵つきの餅」も「可憐な妻」も遠くなってしまった。そして激動の昭和を走りぬいた汽車の音も　流青

洗濯もの干す手に春はまだ遠い　田中美佐子（立石）
遥かなるイラクに増えよハトの群れ　花田扶巳子（中島）
青春を過ごした町がもう遠い　吉開綾子（筑紫町）
海苔舟の夕陽を積んで遠い沖　米沢葉子（矢留本町）
金柑煮義母（はは）の味には程遠き　戸塚貴美代（今古賀）
父母在すか遠い銀河の空仰ぐ　田中位緒枝（豊原）
遠い日の景色はいつも美しい　川渕学（佃町）
案外と遠いものです隣の家　重松秀秋（糀屋町）
介護終え遠い花野にたどり着く　江口和子（今古賀）
遠い日の思い出結ぶ舞扇　松本慶子（上宮永町）
補聴器を外しにこにこお正月　古賀順子（西蒲池）
年賀状安否気遣う遠い友　新谷一廣（矢加部）
杵（きね）つきの父母の気合いの餅（もち）遠く　鶴岡定子（茂庵町）
手を振る母が遠く小さく見えるまで　阿津坂典代（矢留本町）
遠距離の仲を取りもつメール便　山下雪江（吉冨町）
温もりの便りいっぱい遠い人　松本修（矢留本町）
海苔こまに託す男の遠い春　諸藤嵩（明野）
夢に見た遠いあの世の万華鏡　横尾賢三（豊原）
疎遠でも自筆の賀状欠かさずに　木原セツ子（上宮永町）
遠い山見えてなつかし我が故郷　石橋正（有明町）
遠かった景気回復本物か　佐田輝喜（明野）
遠来（えんらい）の友をもてなす鰻飯　井上笹枝（大浜町）
盃（さかずき）に遠い可憐な妻偲（しの）ぶ　阿津坂順一（矢留本町）
遠い日に祖母と過ごした夢を見る　小柳エツ子（中島）
遠い雲かけ足でいった母のよう　井上多津子（蒲船津）
せつなくて遠い夏の日ほろにがく　岡本進（蒲生）

川柳を募集します。応募作品は梅崎流青さん（七ツ家）に選句してもらいます。3月の課題は**「緑」**です。自作、未発表の作品を2月15日までにお送りください（川柳と明記）。

●応募方法　作品に、住所、氏名、電話番号を書いてハガキかFaxまたは直接、企画課広報広聴係（内線３４８）へ。

種はもう緑を宿す地に触れて　流青